

十勝組だより

第35号

発行所 立教寺院内
十勝組々々事務所
発行人 千葉 照映
千 葉 照 映
題字 揮毫 職 氏
妙 覺 寺 住 職 暢
協 谷 曉 暢

新たな気持ちで



十勝組組長
千葉 照映

思いもよらず平成二十四年四月十勝組組長に就任し四年の歳月が流れ、前号に於いて退任の挨拶を、と思っていきましたが、またもや続投という不測の事態となり五年目がスタートしました。

今までの四年間は東日本大震災に対する復興支援を中心に活動して参りましたが、またも四月十四日、今度は熊本県・大分県にて大地震が発生し多くの被害が出たことはすでにご承知の通りであります。

十勝組としては定期組会にて承認された通りいち早く義援金として四十万円を送金致しました。また、引き続き今年度は福島県の復

興支援宗務事務所に、常例の時のお茶請けとしてお菓子を月一回送らせて頂くことと致しました。

さて、七月十三・十四日と二本山の全国組長会に参加させていただきます。

全国から二百二十六名の参加があり阿弥陀堂においてご門主さまご臨席の下開会式が行われ、その後、石上総長より『宗門の現状と今後について』と題してお話がありました。その中で特に印象に残った言葉は「これからの私たちに求められているものは何か」ということであります。それは住職・坊守の人柄、分かりやすい話や有難いお勤めをしてくれること、境内が整って清潔であること、そのような日常的なことでありました。人が集まるお寺、「お寺の庭にはいつもきれいな花が咲いているね」まずはそのような安らぎが求められていますのでは、と思つたことであります。もちろん、伝道教化が

副委員長を拝命して



音更町妙法寺
石田 智秀

このたび、御同朋の社会をめざす運動(実践運動)十勝組委員会・副委員長を拝命いたしました。

前組長(白木さん・音更・西然寺さま)の時に、副相談員や相談員として、微力ながら十勝組の運営に関わらせていただき、不十分ながら精一杯にさせていただきました。

このたびの任命にも、やはり漠然たる不安が募りますが、組長・副組長・各部長をはじめ、組のいろいろの方がくださるアドバイスやご教授に従いながらつとめさせていただきます。

先の「基幹運動」から発展的に継承された「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」は、宗派や

主であることは言うまでもありませんが、人が気軽に足を運べる環境を整える；それも住職・坊守として大切な職務なのかなと感じた研修の場でありました。 合掌

「教区・組からの上意下達による『業務』ではなく、親鸞聖人が広くご教示された浄土真宗、阿弥陀さまから願われて生きるわたしたち一人ひとりの、気づきとよるこびから紡ぎ出される(自然)の活躍であり、その活躍が織り成す「生き方」の総称です。

今まさにわたしに届いている南無阿弥陀仏は、わたしの救いの証拠です。阿弥陀さまの願いの中で、今を生きるそれぞれのいのちが、生き生きと、精一杯、無理なく照らし合い輝き合うために、何が出るか、何がしたいか。

各種の研修会やご法座、れんげん、復興支援活動等を通して、ともに感じ、考え、実践していくお手伝いをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

称名裡

副組長就任挨拶



芽室町大船寺
三浦 敬信

この度、千葉組長より十勝組副組長として会計を仰せつかりまし

た芽室町大船寺の三浦敬信です。

まさか、この私が十勝組会計を仰せつかるとは思ってもならず、突然の出来事で大変戸惑っております。率直に申しまして、会計業務を無事につとめることが出来るのかという不安が大きいというのが正直なところです。

私にそのような大役が務まるのが悩みましたが、受けさせて頂いたからには十勝組のために、少しでもお役に立てるよう一生懸命つとめてまいります。

また、前任の寶照寺・泉恒樹さまには四年間本当にお疲れさまでした。後を引き継ぐ責任の重大さを感じております。わからないことばかりですので、これからいろいろとご相談させて頂きますのでご指導お願いいたします。

十勝組のみなさま、なにぶん初めてのことですので、ご迷惑をお掛けすることがあるかと思えます。私も一日も早く慣れるように努力いたしますので、お気づきの点などご助言を頂ければと存じます。

これから、みなさまのご教示を仰ぎながら精一杯つとめさせて頂きます。どうぞご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

台風被災支援報告

十勝組副組長 桃井 直行

二〇一六年八月末に北海道を襲った台風十号をはじめ、連続して十勝を直撃した台風は、巨大な被災の爪痕を各地に遺しました。とりわけ足寄町・新得町・清水町は、未曾有の豪雨水害となり、断水や

住宅への浸水、橋脚が流され道路が分断されるなど、日常生活にも大変な被害を及ぼしました。

この事態に、十勝組と致しましても早急に三役会・協議会(災害対策委員会)等を開き対応に当たりました。



泥水が流入した新得町本通り



濁流に押し流された清水町の住宅



洪水で崩落したJR鉄橋

まず、この度の台風被災にあつた六ヶ谷寺(台風十号等で著しく)ご門徒に被害があつた地区のご寺院・立教寺・新泉寺・妙覚寺・真浄寺・壽光寺・照經寺のご寺院様に対しては、それぞれ十万円を「台風義援金」としてお渡し致しました。

また、被災されたご門徒様(住宅の床上浸水以上)には、直接各二万円を「本願寺からのお見舞いタオル」と共に「門徒見舞金」としてお渡し致しました。「門徒見舞金」につきましては、八ヶ寺(真浄寺・大船寺・光教寺・新泉寺・妙覚寺・照經寺・大正寺・壽光寺)のご門徒様で、全部で十九件の申告がありましたので、決定事項に従つて対応致しました。その他、ご門徒様の畑等の被害が計り知れないとのことでありましたので、ご希望がありましたご寺院様については「本願寺からのお見舞いタオル」をお渡しするという事で、対応させて頂きました。尚、寺院に直接の被害がありました立教寺様(納骨堂の床下浸水)におきましては、三役等の有志で床下に入り、お骨等を倉庫に運び出す作業を致しました。

いずれにいたしましても、この度の台風はご寺院にもご門徒にも多大なる被害をもたらしました。これで終わりではなく、これからが大変でありますので、今まで以



気球と園児たちによるお出迎え

事が開かれ、さまざま参加して記念行事が開かれ、

上の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。
最後に、この度の台風災害に当たり、多数のご寺院の皆様より十勝組又は被災されましたご寺院様に対しまして、支援物資の提供や災害義援金などあたたかいご支援

専如ご門主帯広別院をご巡拝

この度、法統を継承された本願寺第二五代専如ご門主(大谷光淳)

を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。また、北海道教区や多くの各組からも支援物資や義援金を賜りましたことも、重ねてご報告申し上げます。

台 掌

さまが七月八日、帯広別院をご巡拝されました。四〇〇人以上の寺族・門信徒が参加のもと記念式典が行われ、伝灯奉告法要についての

この消息を披露いたしました。

専如ご門主さまは二〇一四年六月に前門(大谷光真)さま

被災地の声を聞くツアー2016参加者

立 教 寺：千葉 照映(十勝組組長)
 鞍山 之子・渡辺 征子
光明 寺：白井 教生(実践運動副委員長)
 阿部 光江・大野はるみ・鈴木 和恵
 益田 牧子



南相馬市常福寺での炊き出し支援

帯広幼稚園、鉄南保育園、藤花保育園の園児たち約一二〇人が来場し、ばんば馬車の運行や十勝ならではの大型トラクターの展示、パター作りの体験などが催されました。記念式典閉式後には「浄土真宗のみ教えを聞き、よりどころとして多くの人に伝えてください。」そして山積する現代社会の多くの課題に積極的に取り組んで参りましょう」と参加したみなさんに呼びかけられました。

伝灯奉告法要は今年の五月末日まで本山において厳修されております。宗祖親鸞聖人から始まり、

第二五代専如門主へと受け継がれた法灯をご一緒に京都の地でお祝しいたしましょう。

被災地の声を聞く ツアーに参加して

実践運動十勝組委員会副委員長

白井 教生

二月二十五日から二七日迄の三日間、福島市、南相馬市を訪問しました。

初日の午後には福島市に入り、以前十勝組研修会にも講師でお出で頂いた、佐々木宗隆さんの案内で、

市内にある放射線を含む汚染土の仮置き場を視察。官公庁や学校、仮設住宅が隣接する中、国有地という理由から仮置き場としてこちらに保管されているとの説明があり、参加者一同あまりの光景を目にし、いたたまれない気持ちで一杯になりました。

その後場所を移し、県内二か所の原発避難区域から福島市へ避難されている方々からお話を伺いました。「原発被害者は東京電力や国から、多額の賠償金や保障金を受け取っていると思われている偏見が非常に辛い」と涙ながらに訴えられていました。「引き裂かれた家族を返して欲しい」との声には返す言葉がなく、大変長い沈黙が被害者の切実な思いを表わしていました。「この現実を北海道に戻られたら、是非伝えて欲しい」との言葉を胸に仮設住宅を後にしました。

二日目は、南相馬市常福寺を会場とした七回忌法要に参加。十勝組は、十勝産小豆とじゃが芋で作った芋団子を使用した汁粉の炊き出しを行い、参拝者に振る舞いました。十勝から参加した婦人会の皆さんのお蔭により、納得した状態で提供する事ができ、参拝者が

喜んでくれた姿を見て、ここで法要に参加できたという思いを共有させて頂きました。

震災から六年を迎え、今も尚、多くの方々は行き場の無い怒りと不安の中での生活を余儀なくされています。時間の経過と共に、復興という言葉だけが独り歩きして

平成二十八年度 実践運動活動報告

実践運動十勝組委員会副委員長 石田 智秀

組の実践運動は、重点プロジェクトをはじめ、各部それぞれの活動が活発におこなわれることで、着実に実践されております。ご理解・ご協力、ありがとうございます。

三役主体の行事としては、僧侶研修会と開法の集いを一月三十・三十一日に、ホテル観月苑と帯広別院を会場に開催いたしました。

ご講師は、滋賀県の真宗大谷派・照玄寺ご住職・瓜生宗師で、僧侶研修会は「カルト・新宗教・浄土真宗」、開法の集いは「さよなら親鸞会」がテーマでした。興味深い内容であることから、僧研には高田派・大谷派の僧侶の方も多数参加していただきました。

教区主催のCブロック僧侶研修

いますが、現実には程遠いと改めて感じさせられる支援ツアーでありました。

七回忌という大きな節目の年にあたり、今後の支援のあり方等について、組の災害対策委員会としても、検討を重ねて参りたいと思っております。

会（十一月二十七日・二十八日、十勝川温泉ホテル観月苑）に、担当組として協力いたしました。教学・勤式・布教のすべてを「葬儀」を軸に実践的に学ぶことができ、大変に有意義でありました。

八月には台風の度重なる直撃を受けました。教区少年連盟主催の指導者研修会が組の青少年キッズサンガ部の協力のもと、八月末に観月苑で開催されたおりに、溢れそうになる十勝川を見つても研修会自体は滞りなく実施できましたが、他組からの参加者の帰宅は深夜になったそうです。（詳しい報告は青少年部に譲ります。）

そのように、台風の被害が地域的には甚大で、また組内寺院のご

平成28年度 Cブロック 僧侶



©Cブロック僧侶研修会

門徒さまにも深刻な被害がありました。JRや国道などの交通網が寸断されている中、被災翌日から釧路組・日高組・北海道教区さまの代表が被災地を訪れ、水などの救援物資を届けていただいたほか、これまでに根室組・空知南組・札幌組・上川北組・留萌組・根室組・白毫寺・釧路組本行寺・胆振組真宗寺・北見東根真宗寺仏教婦人会・Cブロック総代会研修会さまの各組・各寺・各団体から見舞金・義援金・支援金をいただきました。ありがとうございます。また、組からも、わずかな額ではありますが、被害を受けたご門徒さまにお見舞いをいたしました。

来年度は、龍谷教会学議北海道支部の大会を協力開催することとなりました。日程・内容・ご講師等は未定ですが、僧研と併催する方向で緩やかに考えております。来年度以降も、さまざまな分野でのご指導、ご協力、よろしくお願いたします。

総代会部 活動報告

総代会部部長 桃井 信之

十勝組総代会部 総会・研修会

総代会部では、平成二十八年年度の総会・研修会(第二十九回)を三月二十七日、帯広別院を会場として開催いたしました。この総会・研修会は、一昨年末で新年度の四月以降に行っていました。四月に入ると農繁期となり参加者が激減するため、前回より三月下旬の



高田 芳行 師

開催といたしました。しかし、肝心の参加者は増えたとはいえず、より一層の参加督励が必要と感じています。十勝組には本願寺派寺院が四十ヶ寺以上あり、総代会は各寺院に必ず組織されています。にもかかわらず、参加寺院数も参加者も少ないという現状をいかに打破していったらよいか、なかなかの難問です。内容あるいは開催時期の思い切った変革が必要なのかもしれません。

総会では、この件を含めた事業報告・事業計画、収支決算・予算、新役員選出等の審議があり、全て承認されました。

研修会では、豊頃町茂岩・大正寺ご住職・高田芳行師を講師に迎え、「お念仏をともしび」として生きる」という講題でお話いただきました。高田師は、親鸞聖人が八十歳をこえてご制作になったご和讃の中から、「無明長夜の灯炬なり 智眼くらしと悲しむな 生死大海の船筏なり 罪障重しと歎かざれ」をご議題として取り上げられ、私たち人間が愚かさを避けることのできない存在であり、その愚かさを自覚するからこそ、人生に大きなともしびとなる存在が大切であることを知ること。そして

親鸞聖人はそのようなともしびに出遇うことができたからこそ、そのともしびが自他を照らす智慧となることを願われた、と分かりやすくお取り次ぎいただきました。

Cブロック 門徒総代研修会

平成二十八年年度の「北海道教区Cブロック総代研修会」は、九月二十七・二十八の両日、北見西組の主管にて、紋別市「オホーツクパレス」を会場に開催されました。

黒田正宣教務所長、佐藤弘教区総代会々長、松田正志教区総代会副会長をはじめ、道東各地より各寺の総代・住職方が参集し、参加者は総勢一〇〇名を数えました。

講師には、兵庫教区より、浄土真宗本願寺派伝道院布教専修課程専任講師で、西山別院の得度・教師教修講師、兵庫教区布教団副団長の藤枝行信師にご出向いただきました。二日間にわたりご講演いただきました。

今大会の主管は北見西組でした。が、組内スタッフの皆さまによって周到に準備されてきたことがよく感じられる充実した大会であったと思います。組長はじめ、北見西組総代会関係者にあらためて深く感謝申し上げる次第です。平成

二十九年度は、わが十勝組が主管となり九月二十八・二十九の両日にわたって開催されます。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

仏教婦人会

仏教婦人会活動報告

仏教婦人会部部長 鷺岡 康照

「十勝組仏教婦人会連絡協議会」は五つの支部線三十ヶ寺の仏婦と帯広別院仏婦で構成され、学びと親睦を深める研修を行っています。五月十七日に帯広別院に於いて平成二十八年度総会を開催し、事業計画・予算等の審議が行われ、承認されました。その後役員改選となり、浄教寺の佐藤好子さんが



仏教婦人会(若婦大)研修会

会長に選任され新しい役員体制になりました。七月十二日には、「第六十一回十勝組仏教婦人会」並びに「第二十



六回十勝組若婦人研修会」が帯広別院本堂で開催され、二百三十人の参加がありました。参加者の皆さんは集まりが早く、受付開始時間には大方の参加者が揃っていました。そんな折、会場に向かっていました。その連络がありました。一瞬青ざめました。若手布教使の部員に「ピンチヒッター頼めるか？」と尋ねると「やれと言われればやります！」と力強く応えてくれました。午前の講義は永田弘彰部員(真浄寺住職)が午後の部は上本周作部員(玄誓寺副住職)が担当して、急遽であったにもかかわらず心に響くご法話をいただきました。又、ご講師の怪我也軽傷で大事に至らず安心しました。

十二月一日・二日には「十勝組 仏婦一夜研修会」が十勝川温泉・観月苑で開催され、総勢百四十三名の参加がありました。ご講師に

は上川南組・永楽寺住職の永江龍心師に、「老いを病を生きる」との講題に沿って二日間に渡りお話しをいただきました。
 ・無用な延命治療はしない。
 ・人生を整理する。
 ・まずまず念仏申す生活をする。
 これらの提言を父親の看取り、自身の癌や具体例を通してお話し下さり、参加者の心に残る研修会になりました。

壮年会 活動報告

平成二十八年度壮年会では、本年度の総会・研修会(第二十九回)を四月八日に帯広別院を会場に開催いたしました。総会では二十七年年度の事業報告・決算と二十八年度の事業計画・予算案をご審議いただきましたすべて承認されました。研修会では、中札内村・真光寺副住職・桃井直行師を講師に迎え、「しあわせ」をいただく」という講題でお話いただきました。六月十五日には、音更町・妙法寺・仏教壮年会が当番となり、音更町すずらんパークゴルフ場において組連盟パークゴルフ大会を開催し六十六名が参加して和やかに会の親睦を深めました。



おりました
音更町・報
徳寺住職・
佐藤誠氏が
この三月十
五日に急逝
されました。
ここに会員
一同合掌し、

平成二十九年二月十二・十三日には、十勝川温泉観月苑において十勝組総代会・壮年会合同の一泊研修会が開催され九十八名の参加がありました。ご講師には普別市・西林寺住職・小林義教師を迎え、「門徒って誰のこと？」と浄土真宗らしさを一緒に考えよう」と講題として、親鸞聖人の生涯や教えの姿勢、門徒としての心得などを学びました。参加者から「今後も今回のようにわかりやすく興味を持ちやすいテーマを選んでほしい」と好評でしたが、宿泊をしないので、交流を深めるといふ意味では課題が残りました。今後も多くのみなさまのご参加をお願いいたします。

なが、これまで壮年会部の部長として会の活動・運営にご尽力をいただいたおりました
音更町・報徳寺住職・佐藤誠氏がこの三月十五日に急逝されました。
ここに会員一同合掌し、心から哀悼の意を表します。長い間ありがとうございました。



教区少年連盟指導者研修会が今年には十勝の地で行われ、部長になったばかりで戸惑いながらも無事に開催することが出来ました。八月三十・三十一日に観月苑で、北海道の各地より二十四名が集まり、講師に窪田稔先生を迎えて行いました。一日目は子供たちとの接し方の講義、二日目はボイストレーニングを主にしてくださいました。たくさん義な講義でした。しかしながら、台風十号の直撃により、先生は懇親会を終えて帰られる途中、倒れた木によって車のタイヤがパンクし、夜中になんとか帰宅されました。

青少年キッズサンガ部

青少年キッズサンガ部部長

皆川 隆信

修会となりました。

青少年部キッズサンガ部の重要な行事である十勝組キッズサンガ研修会(キッズサンガ)が緑づくり研修会を十二月十七日に帯広別院で開催しました。総勢三十二名の小学生の子供たちが集まり、とても賑やかに行われました。開会式の後、おもしろ実験教室と題して、日常にあるものを使って新たな発見と驚きを感じてもらいました(感じてもらえたはずです)。次にまずやパンの職人さんに来ていただき、自分で小麦粉をこねて、自分で具材を乗せて、釜で焼いていたとき、手作りのピザを食べました。自分で作ることによって、食について考えてもらうことが出来たと思います。しかしながら、低学年と高学年では作る早さ・食べるスピードが違いすぎて、一同



た。また北海道各地から来られた参加者の方々は通れる道路を探しながら帰宅されました。ある意味思っ

同時に「ご馳走様」が出来なかったのが反省点です。予想以上に時間が掛かり、予定をしていたゲームが出来なかったのも残念でした。それでも子供たちの楽しそうな表情が見れて、良いご縁づくりが出来たと思います。来年は参加宣伝を強化して、各寺院からのたくさんの子どもの笑顔に出会いたいと考えております。

寺族婦人会

寺族婦人会 活動報告

寺族婦人会会長 上本 延子



大雪森のガーデンにて

春の研修会が四月二十七日帯広別院で開催され十九名が参加しま

した。午前は光心寺ご住職・桃井信之師を講師に迎え「海外に行って見えてきた宗教事情」と題してご講話をいただきました。訪問したインドなどの生活風景、現地寺院等の写真をプロジェクターを使って分かりやすく説明していただきました。「宗教は環境が大切で大きく影響しています」とお話しいただき、参加者も日本との違いなどを興味深く聞かせていただきました。午後は棟方恵理子師の指導のもと「笑いヨガ」をしました。笑いの体操とヨガの呼吸法を組み合わせた運動で、誰にでも出来る健康法と説明を聞きながら、「とにかく笑う、大きく笑って笑って」の運動でした。「笑っているから楽しくなる、楽しくなるから笑う。」明るく元気になる笑いヨガでした。

八月二十九日には、台風の影響で当初の計画を変更することもありました。上川の大雪山のガーデンに十二名で日帰り親睦旅行に行ってきました。大雪の美しい山並みを眺めながら、美味しい三國シェフのランチをいただき、晴天のもと雄大な自然の森を散策しました。バスの中ではゲームや会話を楽しみながら親睦を深めました。が、私たちが通った南富良野や狩

勝峠の道路が翌日豪雨で流されて大きな被害が十勝にまで及んだことには本当に驚きました。

十月二十

四日に帯広別院で秋の研修会が開催され十八名が参加しました。午前は妙法寺の石田智秀師を講師に迎え「物語を聞く『君の名は』とナラティブ」と題してご講話をいただきました。深い読書量の中から本を通してその中に見る宗教を、一人ひとりの人生に物語があることをお話し下さいました。午後はいよいよカイトプラクターの西川節子さんに「美と健康の秘訣は美姿勢」と題して骨盤の歪みから始まる女性の身体への影響についてご講話をいただき、実際に肩、腰にベルトを巻いて体操指導をうけました。身近なことなので真剣に身体を動かしました。以上が本年度の活動です。役員・会員のみなさまに支えられて一年が過ぎました。今後とも組内のみなさまご指導ご協力の程よろしくお願いたします。



研修部 活動報告

研修部部長 脇谷 暁融

二〇一六年度の研修部行事報告、ならびに来年度に向けての計画をお知らせします。

毎年度開催している「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)推進僧侶研修会」を本年度は八月二九日に帯広別院を会場にて、参加者約二十名をもって開催しました。

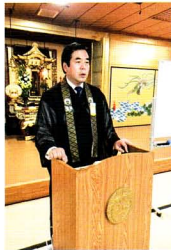
前中央相談員であり、現在は本山実践運動の重点プロジェクト室部長である滋賀教区・宇野哲哉氏を迎え「基幹運動から御同朋の社会をめざす運動へ」五年間をふりかえる運動の成果と課題の継承」をテーマに、これまでの基幹運動から実践運動についての変遷、をもとに、新たな運動はゼロから始まったわけではなく、基幹運動(門信徒会運動・同朋運動)が掲げたものを確実に引き継いでいく必要があることを熱心にご講義頂きました。

さらに現在、積み重ねてきた「十勝組テレホン法話」を開催運用中でありです。テレホン法話の法話順は、別途文書にてご依頼をさせて頂いておりますが、一昨年度からは、より直近一ヶ月前に担当者に直接ハガキにてご案内をさせて頂いております。

二〇一三年度から計画をしてきました「十勝組第一〇期門徒推進員養成連続研修会(連研)」は、計画途中で募集中断後、未開催のまま四年度が過ぎました。組全体の活動が、伝灯奉告法要にまたがり、任期交替の年度と重なって日程

が及々としている中、連研に対する意識が希薄となつて開催が熱望されている状況にはないと判断しています。

連研は、対象者の年齢制限が撤廃され、現代社会の軸となす戦後世代を中心とする方々に照準を合わせた目的で、新教材である「連研ノートE」を使用する計画で、学び続けてきたとの連研に対する意識のアンケートを取り、スタッフの公募を続けて来ましたが、組全体として熱意がない中では難しいかもしれません。その結果、組全体の教化活動(仏婦、総代会、仏壮)の主軸となる人材が育たぬまま経過していくことになり、返すところ組内各寺院の活動の停滞につながりかねないことに大きな懸念をしています。



宇野 哲哉 氏

訃報

- 浄水寺第三世住職 齊藤 開 信 様
平成二十八年四月十三日往生 行年九十五歳
- 誓願寺開基坊守 頼 宮 キミイ 様
平成二十九年三月十五日往生 行年一〇四歳
- 報徳寺第四世住職 佐藤 愛 誠 様
平成二十九年三月十五日往生 行年六十七歳
- 大正寺第二世坊守 高田 登 志 様
平成二十九年三月二十六日往生 行年一〇七歳

十勝組・帯広別院テレホン法話 当番担当表 2017(平成29)年度

仏照寺	藤本 一 月 5日	帯広別院	1月 5日
妙覚寺	脇谷 暁融 1月 12日	光心寺	1月 12日
寿光寺	増山 孝伸 1月 19日	願忠寺	1月 19日
智願寺	頼宮 彰玄 1月 26日	寶照寺	2月 2日
光音寺	頼田 光明 1月 30日	増山 直樹 2月 9日	
復教寺	椎原 瑞榮 1月 30日	佐藤 信広 3月 6日	
本講寺	平林 暁仁 1月 30日	二〇一八(平成三十)年度予定	
新泉寺	高久 教仁 7月 7日	玄智寺 上本 周司 4月 16日	
寿光寺	増山 賢史 8月 14日	仏照寺 藤本 実円 4月 16日	
圓勝寺	芳滝 智聡 8月 14日	東光寺 豊田 信英 5月 13日	
大正寺	高田 芳行 9月 1日		
真経寺	賀陽 真哉 9月 8日		
立教寺	千葉 照映 9月 15日		
光教寺	岩崎 教之 10月 1日		
真光寺	桃井 直行 10月 8日		
大船寺	三浦 敬昭 10月 15日		
妙法寺	石田 智秀 11月 1日		
光明寺	白井 教生 12月 1日		

テレホン法話 ☎(0155)21-7777
 十勝組ホームページ <http://www.tokachiso.com>
 北海道教区ホームページ <http://www.hokkaidohongwan.jp>
 (IDは寺院番号6ケタ、パスワードは教区時報第194号に各寺同封)

編集後記

十勝組だより三十五号を発行いたしました。まず、十勝において、甚大な水害により被災された方々に対して、心よりお見舞い申し上げます。合わせて発行するにあたり編集担当者自身被災地域となり、大変なご負担をかけてしまい、力不足を部長として反省しております。

引き続き各部、活動と内容の写真資料等を残して下さいますようお願い申し上げます。(伝道広報部部長 平林暁仁)